

Fabian Almazan Trio

[Profile]

ファビアン・アルマザン Fabian Almazan : piano



1984年キューバのハバナ生まれ、ニューヨーク在住。

幼少期よりピアノを初め、フロリダ州マイアミへ移住後にはニューワールド芸術高校でピアノを学ぶ。

在学中にオーディションを受け、2002年にNational Grammy High SchoolでのJazz Comboにて首席ピアニストに選出される。

翌年には、北カリフォルニアにBrubeck 特別研究生奨学金プログラムにおいても首席ピアニストの座を獲得。

2003年、マンハッタン音楽院にてKenny Barronのもとで学ぶためニューヨークへ移住。在学中はGiampaolo Bracali氏に師事し彼の指導のもと、オーケストラや弦楽四重奏を含む室内重奏のための作品を制作/作曲。

「Personalities」と題付けられた作品は2007年のASCAP財団のヤングジャズ作曲賞を受賞し、このアルバムは彼にとってのデビュー作となった。

2009年には、Michael W. Greene 奨学金の取得者に選ばれJason Moran氏からレッスンを受けるかたわら、マンハッタン音楽院より修士号を獲得。その後、キューバの芸術機構であるシンタス財団より2010/2011年度作曲部門Brandon Fradd賞を受賞。

また、サンダンス作曲家の研究室に参加する6人の作曲家の1人に選ばれ、ハリー・グレッグソン・ウィリアムズ、アラン・シルベストリ、ジョージ・S・クリントン、クリストファー・ヤング、エド・シャーマー、ピーター・ゴラブなどの有名な映画作曲家とともに学ぶ。2007年以来、ファビアンは、2016年にグラミー賞にノミネートされたE-Collectiveを含む、テレンス・ブランチャード他、さまざまなバンドのピアニストを務めています。Gretchen Parlato, Paquito D'Rivera, Kendrick Scott Oracle, Ambrose Akinmusireといった素晴らしいアーティスト達との共演を果たしている。今後期待のネクスト・ジェネレーション。

2014年6月に新譜「R h i z o m e」をブルーノート・レーベルよりリリースする。その後も自身のレーベルより多数リリースしている。

リンダ・オー Linda Oh : bass



マレーシアと中国人の両親のもとに生まれ、西オーストラリアで育つ。

4歳からクラシックピアノを弾き始め、11歳でクラリネットを、13歳の頃にはファゴットを始める。15歳の頃にエレキベースを始め、ロックバンドで演奏する傍ら、地元のビッグバンドや高校ではJazzの演奏もする。

2002年、W.A Academy of Performing Arts (西オーストラリア芸術アカデミー)に入学し、ウッドベースのレッスンをスタートさせる。同校ではファーストクラス(一流)の榮譽を受けて、卒業リサイタルの演奏では奨学金を授与される。

その後、NYへ移り'08年、ASCAPヤングジャズ作曲賞を受賞。

2009年、「セロニアス・モンク コンペティション」の準決勝にて名誉ある賞賛を受ける。

2010年、オーストラリア若手Jazz音楽家としてベル・アワードを受賞。同年、ベルリンで開催されたベース奏者の競技会において2位に選出される。

また、初リーダー・アルバム「Entry」を、'07年モンク・コンペティション優勝者アンブローズ・アッキムサリ、ウィントン・マルサリスやダニロ・ペレス、スティーブ・ターレのバンドで活躍しているドラマー Obed Calvaire とのトリオ編成で制作し、その作品は注目作となる。最新作「Sun Pictures」では、ピアノレス、ギター入りのクインテットで、ミニマル的なサウンドの中に緊張感を漂わせるエッジの効いた作品を展開しています。

また、現在、パット・メセニー・トリオのレギュラーメンバーとして世界各地のツアーに参加している。

注目のベーシスト。

ヘンリー・コール Henry Cole : drums



1979年、プエルトリコ、マヤゲス生まれ。

「Conservatorio de Musica de Puerto Rico」でクラシック・パーカッションを学ぶ。

1998年、ボストンのパークリー音楽大学に進みジャズの勉強に没頭するが翌年には、帰国しプエルトリコ最大の都市サンファンのもっとも人気と影響力のあるドラマーの一人になる。

オールド・サンファンの多様な音楽シーンにおいて、非常に貴重で自身を形成してるともいえる経験を得たヘンリーは、「もちろん、島(プエルトリコ)はとても小さかったけど、その分何をするのにも動きやすく多くのことを学んだよ。僕はロック、サルサ、ジャズ、エレクトロニカみたいなジャンルの違う音楽を、同じ週の間にあちこちで演奏していたし、大学はすぐそこにあった。」と回想し述べている。

その頃すでに、Giovanni Hidalgo, Dave Valentin, Jerry Gonzalez, Danilo Pérez, Branford Marsalis, そして Luis Marin といった多数の著名なアーティスト達と共演を果たしていた。その後、2003年の秋からは拠点をニューヨークへ移し、マンハッタン音楽学校にて奨学金を獲得し John Rileyのもとで学び始める。

学校を卒業後は、Chris Potter, Adam Rogers, Drew Gress, The Chico O' Farrill Afro-Cuban Big Band, Ray Barretto, Orlando "Puntilla" Rios, Papo Vazquez, Perico Sambeat, Paquito D' Rivera, David "Fathead" Newman, Kenny Werner, そして Mark Turner といったビッグネーム達と次々に共演やレコーディングを果たし、有名ジャズクラブへも多数出演。サンノゼマーキュリーニュース紙や All About Jazz, Jazz Times など各メディアからもこぞって称賛を受け、アメリカはもちろん、ヨーロッパ、アジア等世界各国へのツアーで活躍することとなる。

2010年には、故郷プエルトリコで自身のオーケストラ "The Afrobeat Collective" とともに「Roots before Branches」をセルフリリース。

熟練プレイヤーとの共演/レコーディングばかりでなく、2012年には若手気鋭のピアニスト Fabian Almazan のアルバムにも参加など、精力的な活動展開は今後の注目必至である。

現在、世界最高峰のアルト・サクソ奏者の一人ミゲル・ゼノンのグループのレギュラー・ドラマーとして活躍している。

ヘンリー・コールは21世紀において、押し寄せる異文化間のリズムとジャズ革新の波の最前線にいる。